


平成 30 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	角田市立北角田中学校 全校生徒210名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育・外国語・道徳)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で活躍したトップアスリートの講話を聞き、スポーツへの興味・関心を高め、スポーツに親しむ心を育てる。 ・特別講師の講演および実技体験を通して、向上心を持って物事に取り組む姿勢を育てる。 ・スポーツを通してコミュニケーション力や問題解決能力を身に付ける。
5 取組内容	<p>【2018. 9. 6 (木)】</p> <p>「サッカーを通して学んだこと、オリンピックに出場して感じたこと」</p> <p>講師：ベガルタ仙台クラブコーディネーター 平瀬 智行 氏</p> <p>内容：①講演 ②実技指導（3年生75名対象）</p>  <p>体育館での講演会では、平瀬氏による諦めないことの大切さやオリンピックに出場するまでの話を生徒たちが真剣に聞き入っていた。本校校庭で行われた実技指導では、ベガルタ仙台スクールコーチ4人を交え、平瀬氏のサッカー教室を体験することができた。本校にはサッカー部はないが、活動を通して、スポーツに親しむ、スポーツを楽しむという本来の目的を達成することができた。</p>

【2018. 9. 20 (木)】

「車椅子バスケットボール体験」

講師：車いすバスケットボール女子日本代表

内容：①パラリンピックの説明 ②体験
(3年生75名対象)



角田市まちづくり交流課との共催で、角田市総合体育館での全日本女子車いすバスケット強化合宿事業の一環として車いすバスケットボール体験会を行った。チーム監督の岩佐氏からパラリンピックと車いすバスケットボールの説明を聞き、競技用車いすの操作や、パラリンピックのルールによる車いすバスケットボールの実技を初めて体験したことは、生徒の心に残る良い機会となった。

【2018. 10. 22(月)】

「サッカー教室」

講師：中田 麻衣子氏

内容：サッカー教室 (2年生79名対象)




講師の中田氏は、2006, 2007年なでしこリーグオールスター選手である。グループに分かれ、全員が十分な運動量を確保することができ、意欲的に活動することができていた。女子生徒も女性講師に親しみをもち、楽しく活動に取り組んでいた。

【2019. 1. 16 (水) ~30 (水)】

「オリンピック・パラリンピック教育プログラム」(1年生56名対象)

民間の会社が提供するプログラムを利用して、外国語、道徳での授業にオリンピック・パラリンピックを題材として取り入れた。外国語では、図書室での調べ学習を通して、多様な背景、異なる文化をもつ人々との交流について考えた。道徳では、パラリンピックとの関連から、インクルーシブ社会の実現のために必要なことについて意見を共有し、課題について考えることができた。



<p>6 主な成果</p>	<p>本校には、サッカー部はないが、講演会以降は、積極的に校庭に出てボールを追いかける生徒の姿があった。実際に講師の方にプレーをして頂き、本物を見せることで興味・関心を持つことができ、運動する楽しさや大切さに気づき、行動するようになった。また、車いすバスケットの体験では、障害についての理解を深め、オリンピックだけではなくパラリンピックにも関心を持つことができた。この成果を大河原地区中学校教育研究会保体部会の公開授業にも生かすことができた。</p> <p>【生徒の感想より】 （講演会、実技体験から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諦めないことの大切さを感じました。 ・自分の夢を達成するための自信につながるような講演だった。 ・「やめるのは簡単だけど続けることが大切」と言っていた言葉を忘れずに努力をしたい。 ・テレビで試合があったら観てみたい。 ・サッカーは苦手でも自らやりたいと思うスポーツではなかったが、サッカー教室でとても楽しいスポーツだと感じた。 <p>（オリンピック・パラリンピック教育プログラムから）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、国籍、性別に関わらず、相手のことを尊重していく。 ・日本のことや自分が知っていることを教えることが大切だと思いました。 ・外国の文化について良く調べてから、おもてなしをするようにしたい。 ・相手の言語を学び、日本の文化を教える。 ・相手の国と日本の関係を考える。 ・相手が安心して過ごせる環境を作る。笑顔で接する。 
<p>7 実践において工夫した点 （事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級でオリンピックの理念、意義などを確認した。 ・地域と連携し、地元の角田市総合体育館で行われていた車いす女子バスケットボールチームの強化合宿を見学した。 ・女子生徒にも興味を持てるように女性講師を招聘した。 ・講演を聞くだけでなく、本物に触れ、実際に体験させる活動を設定した。 ・オリンピック・パラリンピック教育プログラムの資料や授業の成果物を校内に掲示した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年が講演会、実技教室を体験することができなかった。 ・講師の選定が難しく、連絡調整など分担して取り組めるような校内の組織づくりが必要である。 ・学年、学級での活動が主となり、学校全体で一つのムーブメントを作り出すところまで進められなかった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も機会をとらえて講師を招聘し、講演会や実技体験を継続して実施していきたいと考えている。 ・角田市まちづくり交流課と連携し、来年度も引き続き行われる全日本女子車いすバスケットボールチーム強化合宿での交流を継続する。 ・今後さらにオリンピック・パラリンピックの理念について理解を深め、学校生活や校外学習でもこれを生かせるように全校で取り組んでいきたい。